

素敵な助産師さん、見~つけた!

“ただいま!”2019年(平成31年)4月24日、日本助産師会に再入会いたしました。

城下 利香



【回想】とらうべ通信2002号に新人プロフィールがありました。長い独身時代の熱い助産に対する気持ちを地域に拡大して異動した香川県保健所保健師をわずか3年で退職し、県外へと旅立ちました。第2子の出産では、自分らしいお産にこだわり、「いけぞえ助産院」でのお産を選択しました。益々自然なお産に魅了された私は助産院の開設も夢ではないと思うようになりました。5年後、郷里に帰って2人、3人と子供に恵まれた私は再び、地域で母子保健活動に携わりながら復活したいと思い、2000年(平成12年)に香川県助産師会に初回入会しています。当時、出版幽霊委員でした。高松市新生児訪問指導の一員となるには開業届が必要とされて、屋号「マミーズケア&サポート城下」として活動を始めました。しかし、同級生達は皆、主任級として働いており、焦り、正規職に復活する目標を掲げ、大学院チャレンジすることにしました。当時、第3子の授乳をしながら受験勉強したことや、おんぶをして合格発表を見にいった記憶が鮮明に残っています。入学後、研究大テーマを「生き生きとした子育ての支援を考える」とし、早期産した母親がカンガルーケアを受けることによる癒し理論の細分化を行い、母親側の感情的メリットは何であるのかについて検討し、無事修了できました。以後、香川大学補佐員、助手を経て、岡山看護専門学校、徳島文理大学と期限付き就職を果たしては、フェリーや高速道路通勤を繰り返しました。2014年度から3年間は、なんと単身赴任生活まで行って、NHO岡山医療センター附属岡山看護助産学校教員をしていました。

【現在】再入会后4日目です。高松市こんにちは赤ちゃん訪問委託助産師の一員として、又事務所電話相談担当、ほっと相談室市民防災センターリーダーとして存在しています。なによりも、屋号「マミーズケア&サポート城下」は健在です。只今、訪問型乳房ケア、ベビーマッサージ講師として子育て応援させてもらっています。

【追伸】「いけぞえ助産院」で出産した第2子は、結婚して、来年1月末出産予定です。私も、再びマタニティサイクルに入ったようです。一緒に出産したいと思います。



トピックス

2021年6月に育児・介護休業法が改正され、2022年4月より段階的に施行されています。そして2022年10月からは男性育休の取得を促進する新制度『出生時育児休業(産後パパ育休)』が創設されました。通称「産後パパ育休」は出生8週以内に28日間まで取得でき、2回まで分割取得も可能です。

厚生労働省の調査によると2021年度の男性の育休取得率は13.97%で前年度より1.32ポイント増えたものの女性の取得率(85.1%)に比べるとかなり低い取得率です。

男性が育休を取得しやすくなるように社会全体での理解が得られ、女性に子育てが偏ることなく、夫婦で協力しながらの子育てが当たり前になるよう私たち助産師もできることから支援していきたいです。



会員マイページへログインについて

日本助産師会機関紙「助産師」11月号(N04)に会員マイページへのログインのお願いの案内チラシが同封されています。ログイン方法も記載されておりますので、宜しくご協力をお願いします。連絡等をスムーズに行うためにメールアドレスの登録をぜひともお願いします。

「すこやか会」開催のお知らせ：令和5年2月18日(土)13:30~「いのちの応援舎」にて対面で開催いたします。該当者にはメールにてご案内しています。ご参加よろしくお願いたします。

とらうべ通信

2022.12月号
No.101

発行所：(社)香川県助産師会 高松市春日町1176
発行責任者：宮本 政子 ☎：087-844-4131 FAX：087-844-4130

会長挨拶

会長 宮本 政子

香川県助産師会の会員の皆様、いつも香川の母子保健に貢献していただきありがとうございます。令和4年もあと残りわずかになりました。この原稿を書き始めると「ああ!もう今年も終わりか」と時間の流れの速さを実感します。最近コロナの感染者数が減って安心していただけの間、また増えてインフルエンザと同時流行が懸念されております。これから気温が下がり空気が乾燥するとウイルスが元気になるので、基本的な感染症対策を怠らず、皆様ワクチンは積極的に打って下さい。



香川県助産師会は香川県と災害時の支援協定を締結しております。その関係で今年初めて香川県の総合防災訓練を見学させていただきました。香川県防災会議とまんのう町防災会議との合同訓練で、16の訓練が分刻みで実施されました。これまで災害対策について研修を受けてきましたが、今回初めて体験したのは上空及び地上での被害情報収集訓練です。この訓練では、宮崎県の航空自衛隊の戦闘機(?)仕様の飛行機2機が上空から被害状況を写真撮影し、すぐに地上のモニターに送信されるというものでした。その他、火災の発生現場で被災者を直接ヘリコプターで救助する訓練や、遠隔地で病気になった患者をドクターヘリで搬送する様子がモニターに送られてきました。通信技術の発達で災害時の対応も進化しているのを感じました。その他倒れた樹木を取り除く訓練、水道管やガス管の修理など次々と整然と行われ、訓練に直接参加したわけではないですが、一住民として安心感を持ちました。しかし災害はいつ発生するかわかりません、行政も助けてくれるとは思いますが、まず自助が大切です。皆様個人個人防災意識をもって過ごされるようお願いいたします。今後助産師会では安否確認訓練や災害マニュアルの見直しなど行い、会員の皆様の安全や、専門職として災害時の母子支援についても検討したいと考えています。先般日本助産師会の災害対策連携集会が行われ、県内だけでなく地区(香川県であれば中国四国地区)間の連携について検討しました。地区内で災害時対策の概要はきめていますが、いざ災害時にどのように支援するか不明確な点が多いので今後代表者会議等で検討をしたいと考えています。さらに安全対策の面からと日本助産師会よりインシデント・アクシデント報告について会員の皆様に連絡の依頼があり、今回のとらうべ通信に報告のお願いの文書を同封しました。皆様が助産ケア時に体験した様々な事象をご報告いただき、結果の分析から助産業務の質の向上をめざします。自主的にご報告いただくものですので、会員マイページより報告書をダウンロードしてお送りください。年の瀬が迫り何かとお忙しく、体調など崩しやすい季節です。お体を大切になさって、新年を迎えられますように祈念いたしております。来年も助産師会の活動にご協力賜りますようお願いいたします。

研修報告

「歯科医が助産師に伝えたいこと」 講師：もりぐち歯科クリニック院長 森口善夫
関亦頼子

9月11日（日）10:00～11:00の短い時間でしたが、コロナ禍で、なかなか研修もできない状態だったのが、助産師も28名集まり、久しぶりに参加して、盛況な研修が出来て良かったな～、と嬉しく思います。

先生自身、資料をたくさん用意して、わかりやすい表現で説明して下さい、大変聞きやすく助産師達もメモを取ったり、終わりにはたくさんの質問もありました。テーマとしては、「誤嚥性肺炎」「歯並び」「歯科矯正」「母乳育児における顔面発達の影響」「口呼吸の問題性」など…、助産師として、興味深い事ばかりでした。今、母親の子どもに対する歯科の問題は、歯が生える時期であり、虫歯が多く、それに加えて早い時期からは「口呼吸」の問題を抱えている母親に多く遭遇します。それらの質問に対しても丁寧に一つひとつ答えて下さり、私たちも、母親達に安心してお伝えすることができるように感じました。

先生も、NPD（小児口腔発達学）という学会に所属しており、世界を通して次世代の子ども達がより健康に成長発達を目指していくよう日々研鑽されている様子が伺い知れた研修会でした。

今回は、妊産婦の歯科についてもお話をお伺いしたいな～と感じました。

森口先生、お忙しいなか有難うございました。



2022年度中国・四国地区研修会にWeb参加して 中橋尚子

去る10月8日、(公社)日本助産師会2022年度中国・四国地区研修会が昨年に続きWeb開催されました。担当県となった(一社)島根県助産師会による今回の研修テーマは「ここに寄り添い母と子の縁であるために」。初めに「行政との連携 北広島町での活動の実際」「益田市産後デイサービス～6年間の歩みと今後の展望～」と、二つの助産院から産後ケア実践報告がされました。次に「周産期メンタルヘルスと養育的ケア—妊娠期から始まる切れ目のない支援の構築—」では“産後の抑うつエピソードは50%は出産前から始まっている”ことを念頭に妊娠中からの気づきと介入・支援の大切さ、普段私たちが用いている3つの質問票（EPDS・赤ちゃんへの気持ち・育児支援チェックリスト）をスクリーニング及びアセスメント・ツールとして活用し、切れ目のない支援に向けて多職種・多領域での共有と連携が求められる事を改めて学ぶ機会となりました。続いて三部会集会、休憩をはさみ午後講演の「臨床病態生理」では胎児発育不全・妊娠高血圧症候群等、病態生理を意識した妊娠・分娩管理について。最後に「発災直後からその後に至るまでの母子支援と連携～西日本豪雨災害と新型コロナ感染症の経験から～」では県立広島病院の福原新生児科医師から小児・周産期リエゾンという新しい取り組みを、「災害対応～災害時妊産婦を守るために平時から必要なこと～」は高知から、それぞれの災害時対応についての講演後、閉会となりました。後日オンデマンドで会長講演と「妊産婦に寄り添うケア～心理師として実際の活動から見えてくるもの～」が配信されました。コロナ禍故に一期一会の機会は乏しくなった反面、遠方の研修参加の手軽さ・オンデマンド配信での反復学習は利点とはいえませんが、次年度開催県の広島でお好み焼きを食せることを願うばかりです。

いいお産の日報告

 笑顔あふれるイベントでした！ 西会場実行委員長 綱井朝代

5月から準備をはじめ、無事に11月6日を迎えることができました。昨年同様に完全予約制のイベントでしたが、今回は1家族2ブースの参加可能とし、お楽しみコーナーとして妊婦体験ジャケットや寝相アートのコーナーが会場内に出現しました。今年は、38家族84名の方が参加され、待ち時間に楽しく写真をとったり妊婦体験に挑戦したりする姿がありました。また、急きよ「よってきまいコーナー（育児相談、計測・足型スタンプ）」は予約以外の方も参加可能と変更しました。そのため、一時的に同コーナーに立ち寄る参加者が増えましたが、児の計測や足型がとれたことや、些細な事でも気軽に相談できたことを喜ばれていました。「赤ちゃんの抱っこと沐浴体験」と「マタニティヨーガ」の2つを申し込まれる方もおり、マタニティヨーガの夫婦での参加率が例年にくらべて高かったようにも思います。また、マタニティヨーガを終えた夫婦の方が、ベビーマッサージの部屋を見ながら、「来年はここに参加できるね」と話されていました。参加者の方にも来年につながるイベントになっていると思うと、毎年開催できることをうれしく感じました。どのブースも、妊娠週数や児の月齢に応じてのきめ細やかな助産師からのアドバイスが、前から横からそして後ろからと飛び交い、どこも熱気と笑顔であふれていました。妊娠中・育児中のほんのひとときの時間ですが、このイベントを通して「あなたのそばに助産師がいます」という言葉に安心し励まされた方がいることを願っています。最後になりましたが、今回のイベントを開催するにあたり、ご協力いただいたすべての方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



 第26回いいお産の日（高松会場）活動報告 高松会場実行委員長 小原井恵美

11月3日（木・祝）、2年ぶりとなる高松会場でのいいお産の日のイベントをいのちの応援舎で開催することができました。コロナ禍のため完全予約制で沐浴体験、ベビーマッサージ、助産師相談、足型アート、眞鍋助産師とお産を語ろう（座談会）を実施し、21世帯59名の方がイベントに参加して下さいました。地域助産師と勤務助産師とがタッグを組んでイベントをやっていく機会はこのいいお産の日ならではの活動ではありますが、最初の実行委員会では少し緊張する中で準備が始まっていきました。しかしイベント当日ではうまく融合していい雰囲気の中で参加して下さいました方も、私たち助産師も笑顔であふれていたように思います。また、様々な経験値を持つ助産師が状況に合わせ臨機応変に対応していく姿はボランティアで参加してくれた学生スタッフにもきっと価値のある時間だったと感じます。眞鍋助産師とお産を語ろうでは参加者から自分のお産の振り返りを語ってもらうのですが、その中にこれからお産を迎えるご夫婦の参加もありお産についてなかなか話を聞く機会がなく不安に思っておられたようですが、座談会の中で意見交換ができ有意義な時間となったのではないかと思います。参加者からはもう少し規模の大きなイベントを望む声もありましたが、小規模ならではのきめ細やかな対応が出来たことは満足度の高さにもつながっているようで、アンケートではすべての方が満足と回答して下さいました。参加者の高い評価は今後もこのイベントを続けていかなくはという思いを奮い立たせてくれるものだなと感じます。いつかまた以前のような活気のあるイベントへと復活する日を期待したいと思います。その時はまた、皆さんのお力をお借りしたいと思いますのでよろしくお願い致します。

